

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 15

2015年9月29日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL： 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

## 小平西地区地域ネットワーク第17回懇談会

### 武蔵野美術大学学生による防災活動、「防災クエスト」の開発

6月2日（火）19時より第17回懇談会が開催され市民や学生約30名が参加されました。武蔵野美術大学における防災活動と、ゲームで子どもたちに防災訓練を楽しく学んでももらいたいとの取組みが報告されました。



第二ブロックが昨年10月に取り組んだ「きつねっばら公園」

での防災訓練が契機となり武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科の後藤吉郎教授、学生の中山さん、菊地さんとのつながりがうまれました。武蔵野美術大学ならではの専門性を活かして地域に役立つものを創り出したこと。またその活動を継続発展した中で地域住民と顔の見える関係ができました。

① 「防災問題にとりくむ」中山優季さんの報告。

ムサビの防災について検証した。防災グッズやマニュアル資料は多数あるが広まっていない。防災体験学習施設「立川防災館」を見学し、自分が楽しく、体験したことならばイメージがわきやすく自分に関係ある情報になるということを学んだ。

ムサビの施設管財課にインタビュー。防災訓練の学生の参加率が低い。AEDや消火器の場所や使い方を知らない。留学生には非常時に言葉が伝わるか、地域との繋がりが弱い

と感じた。黎明会の防災訓練を見学。施設の高齢者はほとんどが認知症のため、“自助”は期待できない。本当に災害が起こった時はどうなるかわからないと不安がわいた。

② 「西地区ネットワークとの出会い」菊地七瀬さんの報告。

西地区地域ネットワーク第二ブロック主催の防災キャンプに参加して（2014.10.3）地域の人たち、東小川橋地区防災連合会の早田さん、上宿小学校ボランティアの菊地さん、自由遊びの会の足立さん達と顔の見える関係ができた。

東小川橋地区防災組織の後継者不足が悩みとのこと。若者の中でも、地域で比較的時間がある子どもたちをターゲットに防災意識を高めていくにはどうしたらよいか？

子どもたちが楽しく、防災意識を育めるゲーム「防災クエスト」の開発を思いつく。美大生のものづくりの力を活かそうとビジュアル的にも工夫して「冒険の地図」「魔術書」などを考えた。ムサビの仲間を募ったら17名が協力を申し出てくれた。子どもたちに人気のゲームを開発、子どもたちが参加したくなって「防災勇者」になれる（2頁へ続く）

#### 西地区地域ネットワークって何

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

冒険の書（賢者の山、毒の洞窟、旅の防具屋、炎の悪魔）を作成した。

上宿小学校と第十二小学校の協力を得て小川緑地にて防災訓練を行う。小平市防災安全課に後援申請し、ぎりぎりですべて許可を得られた。担当教員の助言を得てレクリエーション保険にも加入した。当日はおおよそ40名の参加者があり、アンケートの結果では「楽しかった（89%）」、「勉強になった（90%）」、「またこういうイベントがあったらやりたい（100%）」、「毒の洞窟が楽しかった。」「本もハンコもかっこよかった。もらえてうれしい。」「消火器を家に買いたい。」などなど。地域の小学校の

地域コーディネーターとの繋がりが出来、小学生に対する防災教育にも貢献した。連携協力がさらに発展すると予測できる。その後も小平市主催の「忘れない3.11展」にも参加し好評だった。



## 大学生とボランティア

白梅学園大学 子ども学部 家族地域支援学科 4年伊藤 綾

6月28日、僕はこだいらボランティアセンターの企画で場をお借りして自身のボランティアの体験談を話してきました。人前に出て話すことが苦手なのでとても緊張しましたが、良い経験でした。この経験で自身のボランティアの体験談を話すことは改めて自分の体験を整理する機会にもなりました。振り返ってみると1年次では小平市の学童で、2年次では大田区の廃校を活用した児童館、中学生の勉強会で、3、4年次では小平市のデイサービス、コミュニティーサロンで、一つ一つのボランティア体験が色濃く残っています。

初めは「フィールドワーク実習」という学校の課題で半ば無理やりに体を動かしてボランティアをしに行っていたのを覚えています。しかしいつのまにか、ボランティアをしているといつも楽しんでいる自分がいます。ボランティアには、普段体験できない、非日常感のようなものがあって楽しんでもしまうのだと思います。

以前、人がいなくなった花火大会の後にゴミを漁っている様に見える人影を見たこと

があります。よく見てみると、その人は手を汚しながら、様々なゴミで溢れ返ったペットボトルのゴミ箱を分別していました。とても1人ではすぐに終わらせるほどの量ではありませんでした。僕にはすごくかっこよく見えました。こんなことを自ら先陣を切って出来ないからです。僕は声を掛け、手伝いましたが、30分程かかりました。作業を終え、少し誇らしい気持ちになりました。その人には感謝されました。何かくすぐったい感じがしました。その人が感謝されるべきなのだと思います。

僕は変人です。でも僕より先に手を付けたその人はもっと変人です。傍から見たら変です。こんなこと誰もしないですから。しかし周りより楽しく生きていると思います。

よく「学生がボランティアに来てくれない。」と聞くことがあります。学校、アルバイト、遊びで忙しいのだと思います。でもそこにボランティアが関わったらちょっと素敵だと思いませんか。周りより何かをやっているって気がしませんか。

## 人がつながる居場所のつくり方

———ほっとスペースさつき第6回学習会———

第4ブロック世話人 渡辺穂積

「ほっとスペースさつき」の第6回学習会が8月8日(土)10時～12時30分に白梅学園大学のI-13講義室で開催されました。夏の大変暑い日にもかかわらず、スタッフ・利用者・居場所づくりをされる関係者等々45名もの方が参加してくれました。

学習会は2部構成で行われ、まず1部はほっとスペースさつきもこの8月で発足して2年半経過したことから、総括を兼ねて「コミュニティサロン・ほっとスペースさつき」の現在までの活動状況について、副代表の細江の方からパワーポイントを使用して説明がなされました。



次に第2部は、「公益財団法人社会教育協会 日野社会教育センター 理事 中能孝則（なかよくたかのり）さんより「人がつながる

居場所の作り方」と題してお話をいただきました。日野社会教育センターは、歴史も古く素晴らしい居場所づくりをされており、中能さんからはその長い経験を通して現場で実際に繰り広げられている数多くの実態を中心に解りやすくかつユーモアを交えてのお話で会場の皆さんも楽しく学習させていただきました。特に居場所づくりの最大のキーポイントは、楽しい事が何より、そして挨拶と笑顔が大切としめくられたのが印象的でした。ほっとスペースさつきも今日学んだ数々の教えをこれからの活動に生かしていきたいと思います。



また、この度の学習会開催にあたり平成27年度草の根育成財団助成事業さんからの助成と会場を提供していただいた白梅学園大学さんに心よりお礼申し上げます。

## 小平市立第一小学校の納涼祭で妖怪体操を踊る

家族・地域支援学科 森山千賀子



(やぐらの周りでの炭坑節踊り)



(妖怪体操第一を踊っている場面)

家族・地域支援学科の1年生が、2015年7月18日（土曜日）に、小平市立第一小学校の納涼祭に参加し、地域交流を体験してきました。

当日は、時折小雨が降ったりやんだりの天候でしたが、浴衣姿の小学生の子どもたち、保護者の方、卒業生、地域の方々が三々五々

に参集し、校庭の周りの屋台を囲みながら賑やかな光景でした。今年も恒例の盆踊りである炭坑節や東京音頭に加え「妖怪体操第一」を覚え、納涼祭に臨みました。妖怪第一体操の披露の場面では、不揃いなどところがありながらも、子どもたちも一緒に体を動かしてくれました。盛り上がるの一助にはなれたのではないかと思います。

## 世代間交流論で「コミュニティ・カフェ」を運営して学んだこと

白梅学園大学には、世代間交流論という授業があります。その授業の一環で地域のデイ



サービスの利用者の方々をお招きし、5月から7月にかけて計3回（月1回）のコミュニティ・カフェを開催しました。

1回目のコミュニティ・カフェでは、文化創造ホール indoor に入る時に、立ちしゃがみが難しく靴が脱げない方がおられました。またレク活動では、大きなカードを床に置き、カードの場所まで移動してめくる神経衰弱を行いました。立ち歩きに困難のある利用者の方々への配慮が足りず、多くの反省点がありました。そのため2回目では、室内に土足で入れるように工夫し、レク活動では絵本の読み聞かせやふるさとの歌の手話など、座ったままで行える企画を考えました。3回目は、盆踊りや「すいか」ボール運びゲームなどを行いました。どの回でも季節の歌、お茶とお菓子の時間を設け、時間の中にメリハリをつ

### 家族・地域支援学科2年 坂田ひかり

けました。このように学生が企画し運営して、高齢者の方と交流する機会はあまりなかったので、どれも新鮮でとても良い経験になりました。何度やってもまだまだ反省点はありますが、回数を重ねるごとにみんなが成長していることを実感しています。



また、コミュニティ・カフェの開催するにあたっては、デイサービスの職員の方々やボランティアの方からの学びも多くありました。慣れないことばかりでうまく進められない時には助言をくださり、利用者さんの移動やイス等のセッティングも手伝ってくださったりとお世話になりました。お茶の時間に話に詰まったときやレクに参加して雰囲気盛り上げてくださるなど、とても自然に利用者さんの気持ちを盛り上げて頂きました。さすがプロの方の支援は違うと、感心するとともに、多くの学びを得ました。

私たちはまだまだ経験不足でわからないこと、できないことが多いけれど、このコミュ

ニティ・カフェで学んだことを少しでも活かせるように今後も活動していきたいです。

## 「ほっとスペースきよか」・開催日を月4回にふやします

月2回の開催日を4回に増やし、10時から3時30分までの時間延長！

ほっとスペースきよかは、1年半前に設立し月1回開催してきました。そして今年3月からは月2回の開催で定着し「地域のいこいと交流の場」として親しまれてきました。毎回一定数の人がきてくれたのは、参加してくる人たちの口コミでのお誘いがおおきかったと思います。また、宣伝チラシの効果、ネットも使った宣伝もそれなりに役割を果たしました。地域では少しずつですが「きよか」が知られてきているようで「一度行ってみたいと思っているのですが・・・」と言ってくれる方も出てきています。「きよか」運営という点からみると、スタッフの献身的な取り組みが大きかったと思っています。

5月には、開所式も終え順風満帆の乗り出してきた「きよか」ですが、スタッフ会議でいつも話題になるのは「顔と顔が見え、世代間の交流ができる地域の居場所にする」という点から考えると「月2回午後のみ開催」を1回でも2回でも増やしていきたいというこ

### 第3ブロック世話人 石川 貞子

とでした。そこで数回のスタッフ会議で検討をして「月4回・10時から3時30分まで」の開催を決めました。もちろんスタッフの体制も大変になりますが一つ一つクリアしながら地道に進めていこうと思っています。そして内容も、「介護や育児の悩みに対するお話、スタッフの得意なお手玉づくりやハーモニカに合わせて歌を歌う等したらどうか」と、どんどん新しいアイデアも出ています。今後も開催日数を増やすことなどは慎重に相談しながらも着実に歩いていこうと考えています。「きよか」がより多くの人に親しまれ「地域の居場所」となるように。



## 小平市地域型地域ケア会議(西圏域)報告

### 小平市地域包括支援センターけやきの郷

#### 松永・大津

平成27年6月22日「高齢者が安心して生活できる地域作り」をテーマに自治会、民生委員、大学、西ネット、各介護サービス事業者、公民館、小平市と包括（中央センター、

小川ホーム・けやきの郷）が参加して意見交換を実施しました。

「独居・高齢者のみ世帯の増加」「認知症高齢者の増加」について、西圏域では東小川橋自

治会のように加入率 100%で数十年にわたり活動されている所もあれば、20-30%の加入率の自治会もあるが、共に様子の判らない方や「助けは不要」と拒否される方が出てきているなど共通の問題があることがわかりました。その一方でさつきやきよか、包括の認知症カフェなど、地域で集える場への取組が地域住民の心理的な安心に繋がっていることも覗えました。今後独居・高齢者のみ世帯がますます増える中で公民館や地域センターの機能を活用・連携していくことや、多忙で活動参加の難しい高齢者予備軍（40-50代）への啓発の必要性が新たなニーズとして挙げられました。

また認知症について、うつ（活発性の低下）が一つのサインとされているがマンションのオートロックなど個人が可視化しにくい状況ではゴミの捨てかたなど小さな変化に気づくことが早期発見につながることもあります。

地域住民と専門職の連携、住民自身への啓発・エンパワメント（個人や集団の持っている力に着目し、その力を引き出して利用・援助すること）等によって見守りあい等互いに補完しあいながら地域生活の安定につなげていく活動が必要と思われました。

## **黎明会「“けやきかふえ”」・「脳健康教室」・「市民講座」のお知らせ**

### **黎明会 今野志保子**

- ① 黎明会の介護老人保健施設けやきの郷内にある地域包括支援センター（この地区の高齢者総合相談窓口です。）は毎週木曜日に「脳健康教室」を開催しております。（事前申込制・半年コース）
- ② 今年の5月から、第4木曜日の午後1時から4時まで“けやきかふえ”を加えて開催しています。“けやきかふえ”は100円の参加費で飲み物とおやつを提供させていただき、20-30分の演奏などのミニイベントのあとゆっくりおしゃべりをして、今話題の健康法や筋力アップ体操、認知症予防情報、趣味の作品お披露目などの話題で盛り上がり、笑い声があふれています。初めてお会いする方たちとも、「かふえ」を通じて知り合いの輪が広がる高齢者のためのサロンです。もちろんご相談にも応じます。“けやきかふえ”は事前申し込みが不要ですので、どなたでも、いつでもいらして下さい。ミニイベント

の出演や企画運営に参加協力して下さるボランティアさんも募集しています。

- ③ また市民講座「認知症に学ぶ」をシリーズで開催します。参加費は無料です。10月3日（土）午後2時から、「認知症に学ぶ～認知症家族の立場から～」というテーマで、若年性認知症の妻を10年以上在宅介護しておられる夫の体験談から学びます。  
12月19日（土）午後2時から、「認知症に学ぶ～認知症のワーキンググループのご本人から学ぶ」としてご本人がパートナーと共に登壇されます。

この地域の方は、認知症になっても大丈夫。十分に学びネットワークを構築しているからと言えたら素敵ではありませんか？さあ、ごいっしょに学びましょう。

- ④ 「黎明寮秋祭り」が10月24日に開催されます。模擬店、ゲーム、バンド演奏などともかく楽しきてんこ盛りの野

外のお祭りです。お子様からお年寄りまで皆さんが楽しめること請け合いです。どうぞ遊びにおいでください

## 実り多かったハワイ会議

### 教育・福祉研究センター：奈良 勝行

(国際世代間交流会議への出席報告)

2015年7月22日から24日までハワイ・コンベンション・センター（ホノルルの中心街のアラ・モアナホテルの近くにある）で、世界10か国から総勢200人が参加して開かれた国際世代間交流会議について簡潔に報告します

7月22日（水）

開会行事とポスター・セッション。

代表ドナ・バット氏などのあいさつの後、約20のブースに分かれてポスターセッション。

特に注目したのは、帝京科学技術大学の看護学部糸井先生の発表した「地域世代間交流事業を通じた認知症の治療法」。新しい治療法として感心させられた。

7月23日（木）

8つのワークショップのうち、セッション2で溝邊、草野、ピーター・ホワイトハウスの3氏が発表。

ピーター氏は、里祖父母プログラム(Foster Grandparents Program)について報告。

アメリカにおけるこの事業では、毎年25,000人もの高齢者が1,000万人もの子どもたちと関わり合っている。このことを創設者フリードマンは知られざる社会政策の勝利と述べている。1996年にアメリカの5つの都市で発足したエクスペリエンス・コア（経験軍団）は、担任教師の指導の下で主に教科の個人指導や生活指導を行っている世代間交流である。

草野氏は、東村山の地域づくりの一環として特養の白十字ホーム入所の高齢者が地域の

小学生と学校とホームを行き来してさまざまな交流—「里孫プログラム」を行っていることを報告。

米国と日本で行っているプロジェクトの異文化的視点から相違性と同一性の検証を試みた。セッションでは、発表者と聴衆がインタラクティブに次に進むべき道を討論した。

7月24日（金）

午前8:00~9:30 am、ロバート・パットナム氏（ハーバード大学教授）の基調講演。

彼は著書『哲学する民主主義』（1993年）の中で、ソーシャル・キャピタルを定義している：「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる『信頼』『規範』『ネットワーク』と社会組織の特徴」。(写真は中央がパットナム博士)



世代間交流学・社会関係資本(Social Capital)論の第一人者らしい格調高いスピーチには感動した。

なお、講演の内容の詳細は、「草野先生の報告」をご覧ください。

午前9:45~10:30 am、ラウンドテーブル討論会（丸いテーブルを囲んで8人が一つのテーマについて話し合う方式）・・・19のセッションの一つで奈良が発表。

テーマ：「西ネットの活動と中学生勉強会」（出席者はシンガポール人と日本人）

発表は、まずロバート・パットナム博士のsocial capital理論を説明。2012年の内閣府の調査によれば、社会関係資本の指数が高い地域ほど犯罪件数や失業率が小さく、平均余命が長く、合計特殊出生率が高いという結果が出ている。そのあと日本での世代間交流学の歴史を説明した。2012年3月の西ネットの生い立ちからコミュニティ・サロン「さつき」、「きよか」、「中学生（無料）勉強会」の

誕生と現在の状況、大学内で開かれるコミュニティ・カフェの発展、中学生（無料）勉強会の開設と前進などについて、最後に、今後の課題について発表した。討論では、全国各地で行われている同種の勉強会の方向性や課題について率直な意見交換を行った。学ぶことの多い実りあるセッションとなった。

\* 果たして何人が集まってくれるかと不安でしたが、数分後に8人が集まって満席。初めての体験でしたが、いろいろな角度から意義な討論ができてほっとした。



## “森で遊ぼう”を終えて

NPO 法人こだいら自由遊びの会

足立隆子

今年も夏休みの8月19日から23日の5日間、中央公園東の雑木林でプレーパーク《森



で遊ぼう》を行った。毎日雨のぱらつくお天気だったが、うだるような暑さの年よりも少

しましな気がした。初日の朝、スタッフのほかにNPOセミナーに参加した白梅、嘉悦、武蔵美の学生や元気のいい子どもたちが集まって、機材を運んだり組み立てたりして、林の中にプレーパークを設えていった。電動ドリルなど使ったこともない学生が大型遊具を作る手伝いをしたり、幅広い世代の人と協力し合って作業を進めていくことは貴重な経験だったと思う。子どもたちにとっても自分と年齢の近い大学生や高校生のお兄さん、お姉さんと遊ぶことは今の時代とても貴重だ。おじいさん世代の人もベーゴマ大会に参加して、本気を出して戦ってくれた。子どもの遊びの世界には一緒に遊んで見守ってくれる大



人の力が必要である。それが地域の力である。今私たちは地域の力を育てていかねばならない。

また林にはいろいろな種類の虫もいて子どもたちにとって自然と触れ合う機会になっている。どうしても効率が優先されてしまうと子どもの遊びはAKU,危ない、汚い、うるさいと嫌われてしまう。室内でゲームをすることが優先されて、身体を動かして遊ぶことが少なくなる。ところがどうだろう、《森で遊ぼう》では汚れることも忘れて目いっぱい食欲に遊ぶ子どもの姿が見られた。恒例の穴掘

りに加えて今年は泥プールも出現。みんなとびっきりの笑顔を見せてくれた。

今年は道路予定地の間に柵ができて、使える空間が制限されてしまったけれど、それでも土と木と多くの生き物がいる限りこの林の持つ魅力は変わらずあった。こうした遊びを経験して子どもたちの内に生きる力を育ててほしいと切に願う。



## **白梅学園大学・短期大学、遊ぼう会&世代間交流広場**

### **保育科1年 水谷 和子**

白梅学園大学では、学生達が主体的に小平市に根付いた活動を行い、地域の活性化を目指して学びを深めています。

その中の一つ、遊ぼう会&世代間交流広場では、白梅のキャンパス内で乳児～小学生の子どもがいるご家庭を中心に、デイサービスのオリーブさんや地域の方に、遊びを通して交流する場となるように学生が目的、テーマを考え、企画運営をしています。

7月14日に行われた広場では、人との交流を大切にするという目的のもと、テーマを七夕にし、遊びコーナー、製作コーナー、乳児コーナー、七夕にちなんだオリジナルの演劇を行いました。どの企画も学生が装飾や遊具を手作りし、子どもに危険がないように、保護者にも楽しんでいただけるように、高齢者との世代間交流が行われるようにとの最善の配慮をし、リハーサルを通して準備しました。毎回、最後に行われる演劇は大好評で、参加者も劇に参加できるようなストーリーになっています。

私は会の副リーダーとして広場に携わりました。学生で参加者のことを考え、どのようなものが喜ばれるのか、求められているのか話し合い、当日まで気が抜けない日々でした。しかし、当日の参加者の方の笑顔や、「毎回楽しみにしています」との温かい励ましを聞き、準備の苦労も報われる思いでした。様々な意見も頂き、次回に繋げていきたいと思えます。

この広場は、学生だけでなく、来てくださる方がいて、交流することによって豊に広がっていくのだと実感しています。地域交流の減少が叫ばれている昨今、地域の現状を学び、子どもの育ちの支援、保護者支援、地域支援の視点を大切に、学びを深め、この広場がもっと多くの方に知られ気楽に参加できるようなものになるように、学生一同励んで参りたいと思えます。

次回の広場は11月21日(土)です。どうぞお気軽にご参加ください。お待ちしております。

## 小平市障害者福祉センター「第 31 回センターまつり」に参加

### —第一ブロック報告(小川西町・栄町)—

4月21日にブロックの世話人会を開催し、2015年度の取組みについて相談しました。以後5月28日、7月16日と世話人会を開催し、秋の取組みについて調整しました。7月10日の栄町コミカフェ準備会、7月23日の小川西町公民館意見交換会、8月17日小平市障害者福祉センター地域懇談会の参加を経て9月6日(日)第31回センターまつりに参加しました。



当日は白梅学園短期大学保育科瀧口ゼミと白梅子育て広場の学生がヤキトリの

販売で協力し、センターまつりの成功に貢献しました。学生たちはほとんどが初めての体験で戸惑っていましたが、いざはじまると参加者との交流を含めて楽しく販売を行っていました。

「まつり」では模擬店の他に、オープニン

グの『創作獅子舞』、子ども劇場の「マリオネ



ット『バースデーペンギン』等の上演、「チャレンジ!障がい者スポーツ」「プチ小さなステージ」、「アートコーナー」「染物作品販売」「体験コーナー(点字、手話)、フィナーレとして小平第十三小学校の「よさこい」などがありました。

地域との交流は顔と顔のつながりが大切で、センターまつりへの参加が4年目で色々なつながりが見えてきました。10月の小川西公民館祭り、小平十三小地区防災訓練、11月の小平十三小学校青少対祭りへの参加等と続きますが、つながりを大切にしていきたいと思えます。(瀧口)

## 「小平市の街づくりの特徴—生活・歴史・文化—④」

### 蛭田廣一氏(元小平市市史編纂課長)

#### ③江戸城構築・青梅街道の開通と石灰輸送

江戸時代になると、徳川家康が江戸に幕府を開くわけですね。これは天正18年、それまでは駿府に居城を持っていた徳川家康が、小田原を滅ぼして、当時は秀吉の家臣だったわけですので、秀吉に命じられて関東に動くのを余儀なくされたわけです。そういったことによって何が変わったのかと言いますと、当時は鎌倉、そして京都をつなぐ導線の大事な道として存在していたものが、江戸と浜を結ぶ道路、つまり今度は逆転するわけですね。南北の道だったものが東西に代わっていく、そういう物流が大事になっていく、そういう時代に江戸が中心になってきますとそれができてきます。

そういった中で何が行われるようになったかとい

うと、今言いましたように葦原だったところを干拓しなければいけない、あるいは江戸城というお城を作らなければいけない、街を作らなければいけない、様々な土木工事というものが頻繁に行われていくわけです。そういった土木工事に必要なのは材料ですよ。石や土や大事な石灰など、いまでもセメントの材料は石灰ですよ。城の白壁あれも石灰でできています。そうしますと江戸城を作るといった時には、どこからか石灰を運んでこなければ江戸城の築城などできないわけです。どこから運んだのか、これが大事です。石灰の産地、江戸近郊で近いのが、実は青梅だったということなんですね。今の青梅市に含まれている北側に成木という地域と小曾木という地域があります、そこが石灰の産地です。今も秩

父セメントがあそこですと石灰をとっています。

そういう点でいえば石灰の尽きない地域ですので、そこから石灰を運ぶことになります。でも運ぶにしてもどうやって運んだらいいのか、当然そのための環境整備というのが必要不可欠です。何が行われたかと言いますと、大熊たかやすという代官に命じて作業道路を作るんですね。それがこの青梅街道です。成木から箱根ヶ崎を通り、そして東大和の駅のところから東へ通じるこの道、中野を通過して江戸まで通じる道、それが成木道と当時は呼ばれていましたけれども、青梅街道になるわけです。その青梅街道がいつ開かれたかという記録は残っていませんので、はっきりした年代はわかりません。ですが徳川家康が征夷大將軍に任じられたのが慶長8年という年です。そして翌9年には江戸城の改築、拡張工事に着手しております。しかもこの工事のために、石灰を成木から運んだという記録がきちんと残っていますので、遅くとも慶長9年以前にはこの青梅街道が開けていたというのがわかっています。

#### ④玉川上水と野火止用水の開削

つまり小平からしてみれば、人も何も住んでいないのに、道の歴史というのはこうして石工としての道路があり、近世の産業道路としての青梅街道があり、ということできています。そういったところによりやく人を集める条件が出来てきたのは、玉川上水と野火止用水の開削です。貞応2年という年、1653年2月に半十郎忠治という代官が玉川上水の奉行として任命されます。準備をして4月4日に工事に着工し、11月15日には四谷の大木戸までの間が開通したというふうに言われています。この間、羽村を取水口にして土木工事をしましたので、43kmという長い距離をわずか8か月でこの玉川上水が掘られたということが歴史上記録されております。どうやって掘ったのかということは謎です。当時の記録がこれは残っておりません。なぜかといいますとこれを請け負ったのが玉川清右衛門という江戸の町民だとも羽村出身の農民だとも言われていますが、玉川兄弟が上水を作ったというのは有名な話です。

また、なぜ玉川上水が今のようなこういうルートだったのかということですね。小平という視点で考えてみますと、玉川上水がどういうところを通過しているのかというと、まさに畝道を通っています。一番低いところではなくて高いところを選んで通っているのです。これはとっても重要なことです。つ

まり羽村の取水口から四谷の大木戸まで43kmの長さの工事をして水を流したわけですが、その標高差は100mに満たない程度の標高差です。ものすごい微妙な高低差のところで低いところへ持っていかないと、水は自然に流れない。つまり川は江戸まで通じない。そのためにいかにすぐれた土木技術を駆使して玉川兄弟はこの玉川上水を作ったのか。水は当然一度低いところへ行ったら高いところへ戻すためには動力をもってしなければ、ほとんど不可能ですから、低いところに落とすわけにはいかない。到達点である四谷大木戸までたどり着くには、どこからどこをたどってどういう風に流れて行ったらよいか、をきちんと事前調査したはず。私も玉川上水を何度か歩いてみましたが、周りにいかに水路が多いか、井の頭公園からは神田川が流れていますが、あの川筋も自然の川筋です。すぐ南側を玉川上水が通っていますよね。まかり間違っても向こうへ落ちたら、もう二度と江戸に水を運べない、だから南側に通っています。杉並の和田というところは南に大きく曲がっている、そういう大きなカーブを描きながら高田馬場を通過して大木戸に流れていくというような水路が掘られていったというのが玉川上水であり、石神井川の普請なのです。そういうことを多分、多くの人たちを投入して、場所を決めて一気に掘らなければ、この短い期間では無理だろうということが言われています。これは小平市史の編集で杉田先生が触れています。

翌年には江戸市中まで水が届くようになります。もともと玉川上水というのは、江戸市民の水需要のために掘られたものですので、優先順位としては高いわけです。ですがこの小平の口先から野火止用水が貞応4年、貞応3年に完成して半年後に水路を野火止用水、川越藩に水路を拓くことが許されています。これは当時の老中であつた松平伊豆の守の領地ですので、ある意味うなづけるかなということがありますが、実は小川村が開けたというのは、和暦としては明暦2年、1656年です。つまり野火止用水が開かれた翌年です。その幕閣の領地に水を引くのはと言いましたけれど、江戸幕府というのはそういう意味で封建主義の時代というわけです。だから武士階級には優遇されたのだろうということを裏付ける、けれど小川村というのはそうじゃない。

( 続 )

皆さん、コミュニティ・サロン（下の①～③）と「中学生勉強会」（④）に足を運んでみませんか？ お待ちしております！（下の地図を参照）

**①ほっとスペースさつき**

毎週火曜と木曜 10:00~16:00 問合わせ：渡辺穂積  
TEL:042-344-7412

**②ほっとスペースきよか**

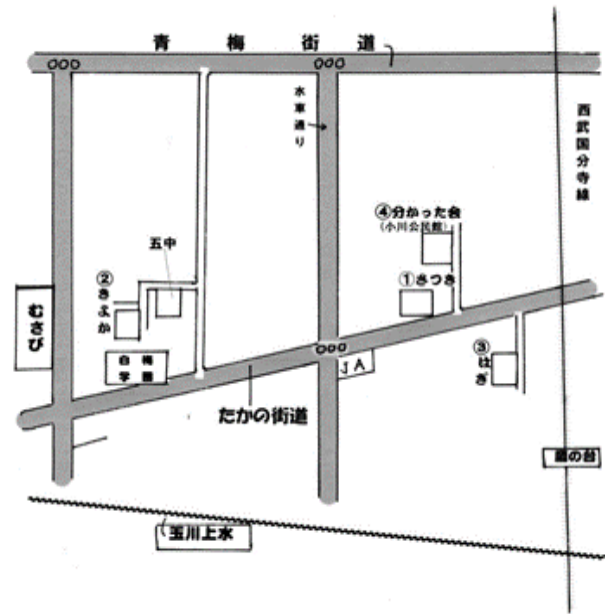
毎月4回・月曜（原則として）10:00~15:30 他  
問合わせ：石川貞子 TEL:090-7732-2089

**③アットホームほぎ**

毎月7,17,27日：14:00~17:00  
問合わせ：萩谷洋子:042-342-1738

**④中学生無料勉強会（小川公民館内）**

毎週木曜日 18:00~20:30  
問合わせ：奈良勝行：090-4435-4306（生徒募集中！）



**イベントの予定**

- ◇10月3日（土）14pm～ 市民公開講座「認知症家族に学ぶ」特別養護老人ホーム、やすらぎの園にて。  
問合わせ 042-346-6611（今野）
- ◇毎月第4木曜日 13-16pm 「けやきかふえ」  
老人保健施設「けやきの郷」参加費 100円
- ◇10月11日（日）10時～17時 プレーパーク  
イベント遊び（中央公園林）
- ◇10月17日（土）9-14pm 12小 小青少年対まつり（楽縁祭）  
12小「楽縁祭」に 自由遊びの会・西ネット第2ブロック  
関係者も協力。「森のオルゴール」をつくろう  
18時から幻燈会「ゼロ弾きのゴーシュ」（どんぐりの会）
- ◇10月24日 「黎明寮 秋祭り」
- ◇11月8日（日）13小 小青少年対祭り
- ◇11月21日（土）子育て広場（白梅学園大学）午後13時～
- ◇11月29日（日）10時～15時 「さつきバザー」
- ◇12月5日（土）第2回みんなでつくる音楽祭 in 小平
- ◇上宿小青少年対まつり
- ◇12月19日（土）市民公開講座 「認知症に学ぶ ワーキンググループメンバーに学ぶ」老人保健施設「けやきの郷」
- ◇12月26日（土）「きよか」餅つき

**[西ネットの世話人一覧]**

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦	瀧口 優 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・早田 満 芳井正彦	関谷栄子・土川洋子 成田弘子・吉村季織
3	石川貞子・大内智恵 子久保田進・穂積健 児	金田利子・草野篤子 瀧口真央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊 雄

**西ネットの今後の予定**

- 学内会議：10/13, 12/1, 1/12, 2/2, 3/1
- ◇10月24日～25日 白梅祭「西ネット・コミカフェ」F12
- 世話人会：11/24, 2/16
- 懇談会：12/15, 3/12

**お願い**：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体（者）の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当（奈良まで）お申し出下さい。

**投稿募集**：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください（奈良勝行）。

メール：ever.onwardnara@xd5.so-net.ne.jp

**編集後記** 7-8月の記録的な猛暑が、立秋の声と共に収まりました。世界に目をやれば人災や天災で人心穏やかならずです。子どもから高齢者までが、地域で平安に暮らすために、地域を耕し、ネットワークを強めることが私たちの財産です。私たちの経験が皆様のお役にたつなら幸いです。収穫の秋に向けて尚一層のご活躍をお祈り致します。（関谷栄子）